

観光

世界自然遺産、自然公園など

釧根地域には、2005年7月にわが国3番目の世界自然遺産に登録された知床のほか、数多くの自然公園やラムサール条約登録湿地がある。面積で見ると、国立公園は約156千haで、国内の8.2%、ラムサール条約登録湿地は約18千haで、国内の14.1%となるが、琵琶湖を除くと28.3%を占める。

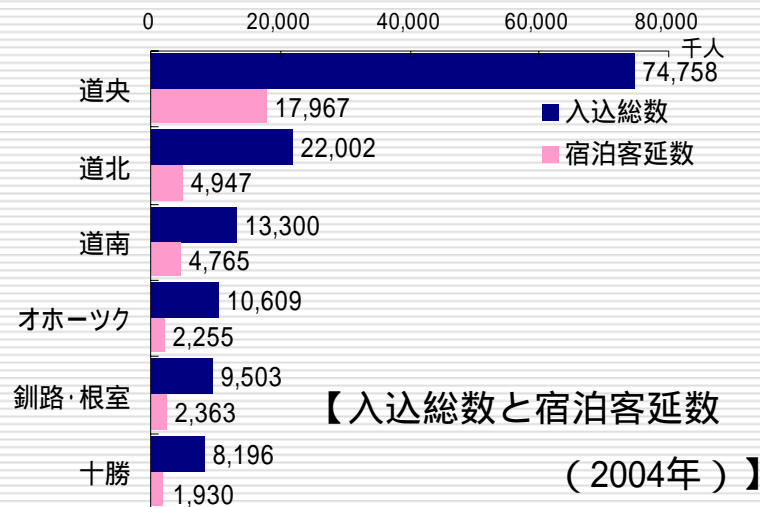
【地域の世界遺産、自然公園等について】

区 分		釧根地域	その他道内	道外
世界自然遺産地域		1カ所(知床)	なし	2カ所
自然公園	国立公園	3カ所(阿寒、知床、釧路湿原)	3カ所	22カ所
	国定公園	なし	5カ所	50カ所
国指定鳥獣保護区		6カ所(知床、釧路湿原、風蓮湖、厚岸・別寒辺牛・霧多布、ユルリ・モユルリ、大黒島)	7カ所	46カ所
ラムサール条約登録湿地		6カ所(釧路湿原、厚岸湖・別寒辺牛湿原、霧多布湿原、阿寒湖、風蓮湖・春国岱、野付半島・野付湾)	6カ所	21カ所
水鳥・湿地センター(環境省)		1カ所(厚岸)	2カ所	5カ所
野生生物保護センター(環境省)		1カ所(釧路市)	1カ所	6カ所

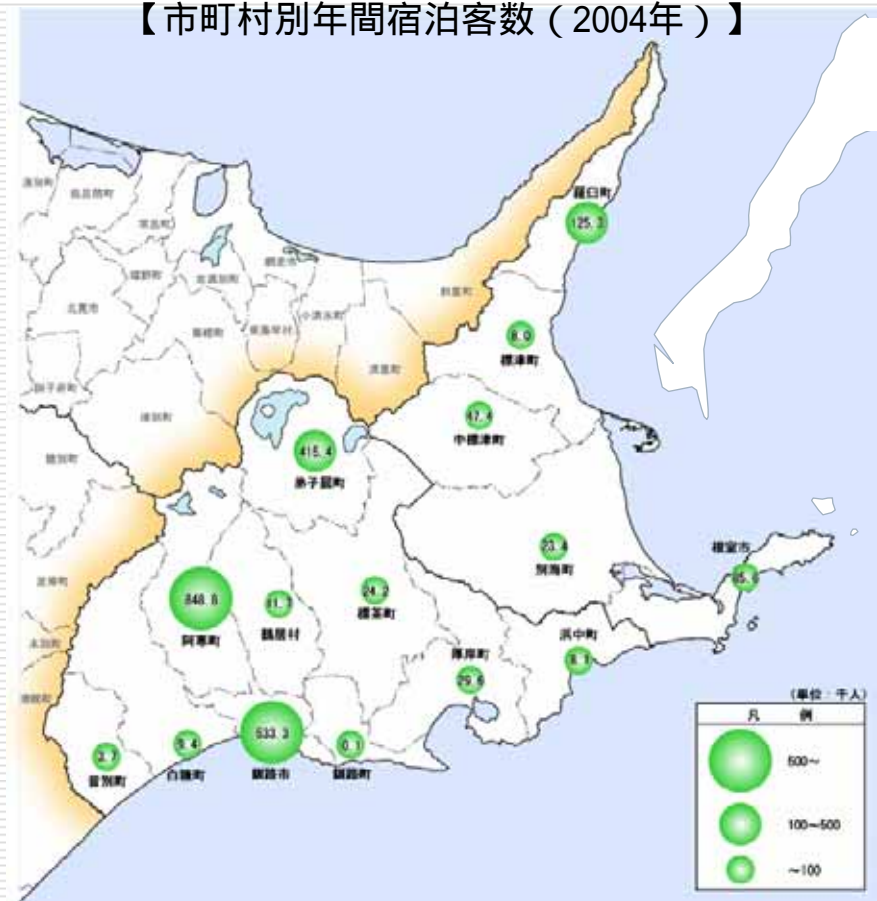
観光

入込客数の動向

釧根地域の入込客数は年間約950万人で、このうち道外客比率は40.7%で全道平均（31.9%）を上回っている。また、宿泊客比率も22.9%で、全道平均（20.1%）を上回っており、外国人宿泊延数も約88千人を数える。



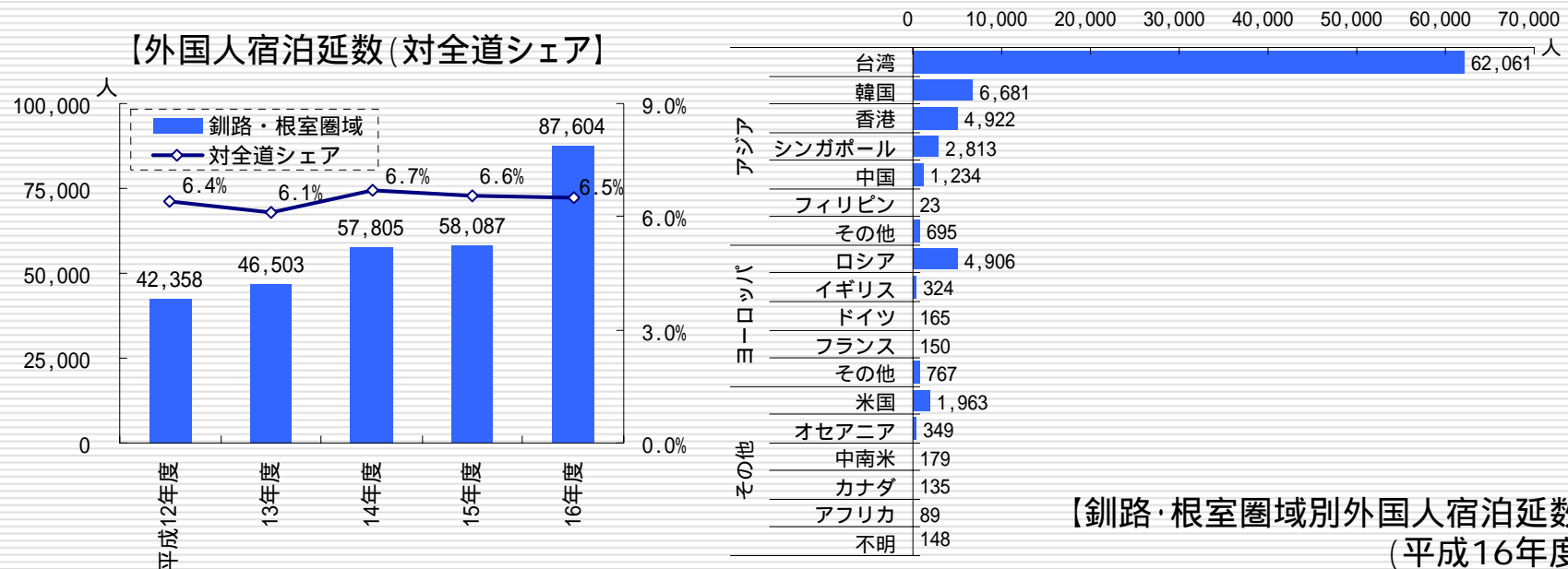
【市町村別年間宿泊客数（2004年）】



観光

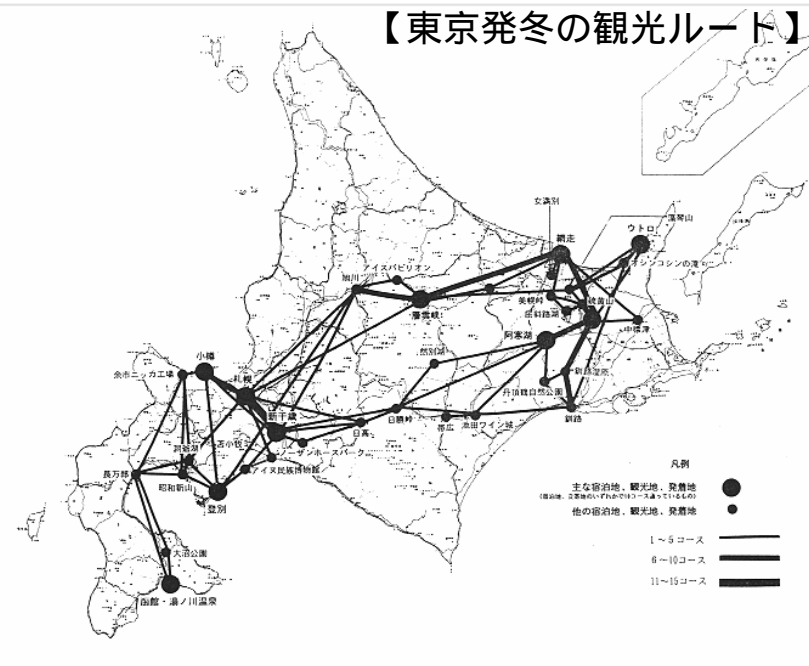
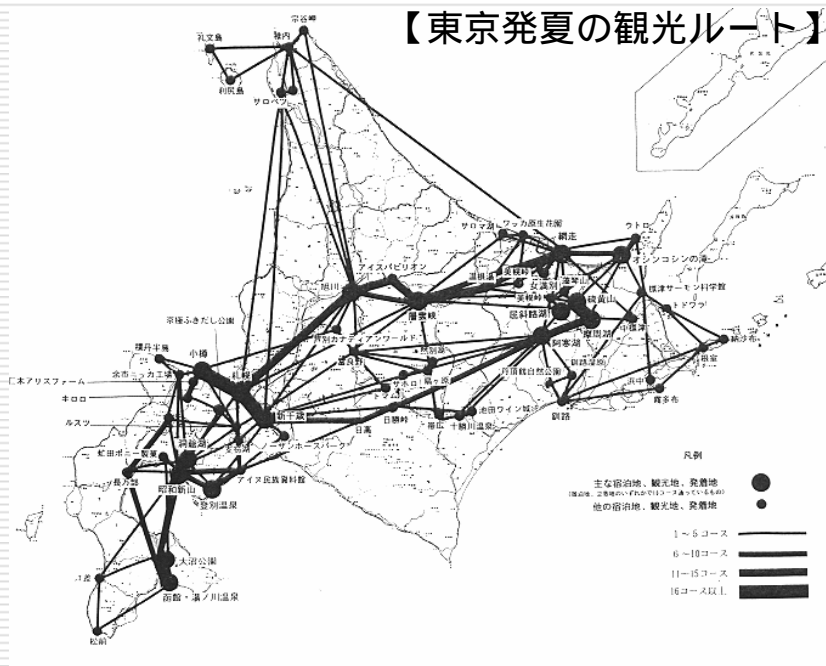
外国人入込客数の推移

釧路・根室地域の外国人宿泊延数は年々増加傾向にあり、国別にみると、台湾の約62千人をはじめとするアジアからの来訪者が最も多いが、市町村別でみると最も多いのは阿寒湖温泉を有する阿寒町（現釧路市）の約58千人で、地域全体の69.8%を占める。また、その動線を見ると、新千歳空港を起点として、網走地域を經由して阿寒等で宿泊するルートが直接釧路方面に入り込むルートより多いといわれている。



観光ルートの設定状況

東京発の観光ルート設定状況を見ると、新千歳空港発着が221ルート（実数）で最も多いが、次に釧路空港の50ルート、女満別空港の47ルートなどとなっている。新千歳空港発着では、バスによる移動がほとんどであるが、釧路、女満別空港では、レンタカーを組み込んだ「フリープラン」が2割程度を占めており、増加傾向にある。



大手旅行代理店パンフレット等により作成

観光

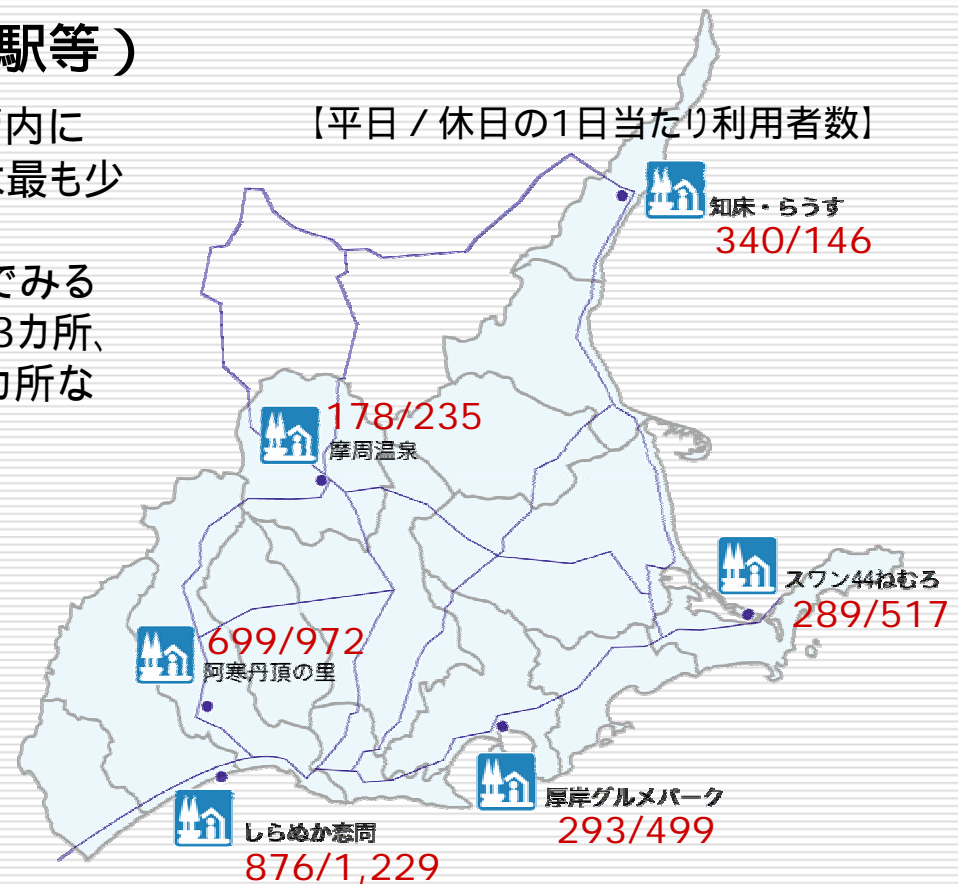
観光情報の提供状況

観光情報の提供場所等（道の駅等）

北海道に92カ所ある道の駅だが、管内には6カ所となっており、道内の圏域では最も少ない(最も多いのは道央の35カ所)。

また、面積比(100平方キロ当たり)で見ると4.1カ所に止まっており、道央の15.3カ所、道南の15.2カ所、オホーツクの14.0カ所などに比べ見劣りする。

また、施設内にある情報端末の利用状況をみると、休日の厚岸では施設利用者の3割弱が利用しているが、その他では1割にも満たない。なお、その内訳は、天気(19.0%)や道路画像(18.1%)、道路情報(16.7%)が上位で、「みどころ」は14.6%の利用となっている。



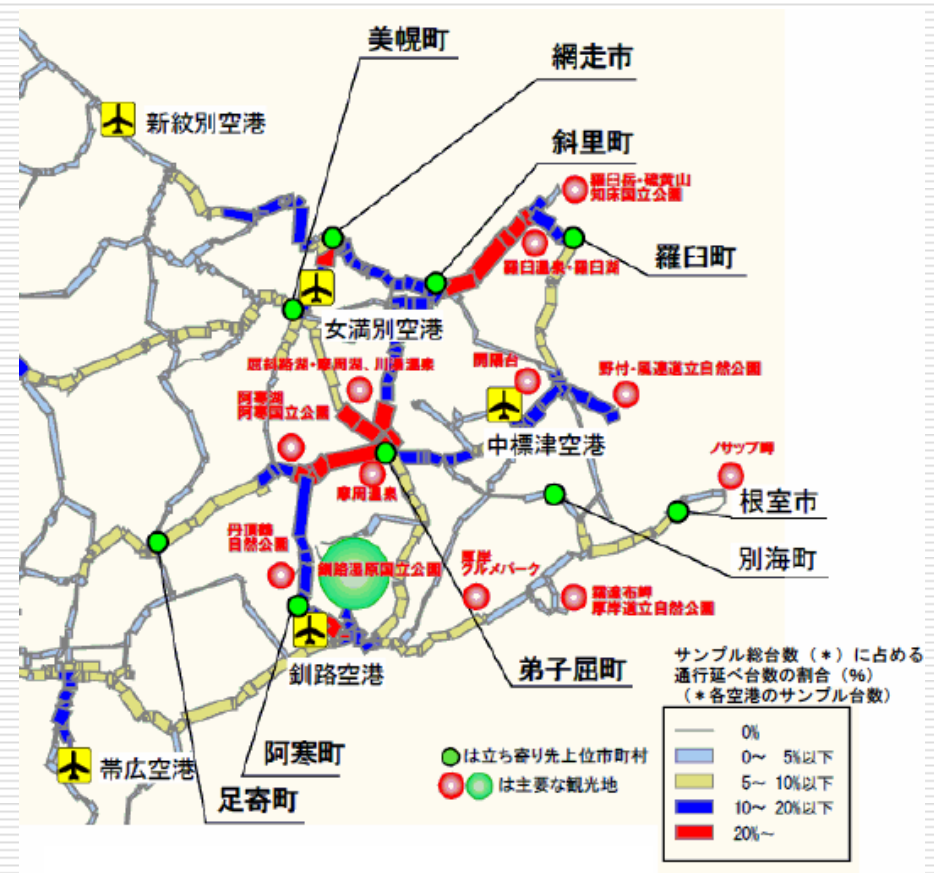
観光

レンタカーの利用状況

東京発の観光ルート設定状況を見ると、釧路、女満別空港では、レンタカーを組み込んだ「フリープラン」が2割程度を占めている。

これら空港及びその周辺と阿寒湖や知床などの観光地を結ぶ路線では、レンタカーの利用率も高い。

なお、利用率だけを見ると、とりわけ阿寒湖周辺が高く、各空港や知床などへ放射線状に伸びていることがわかる。



観光

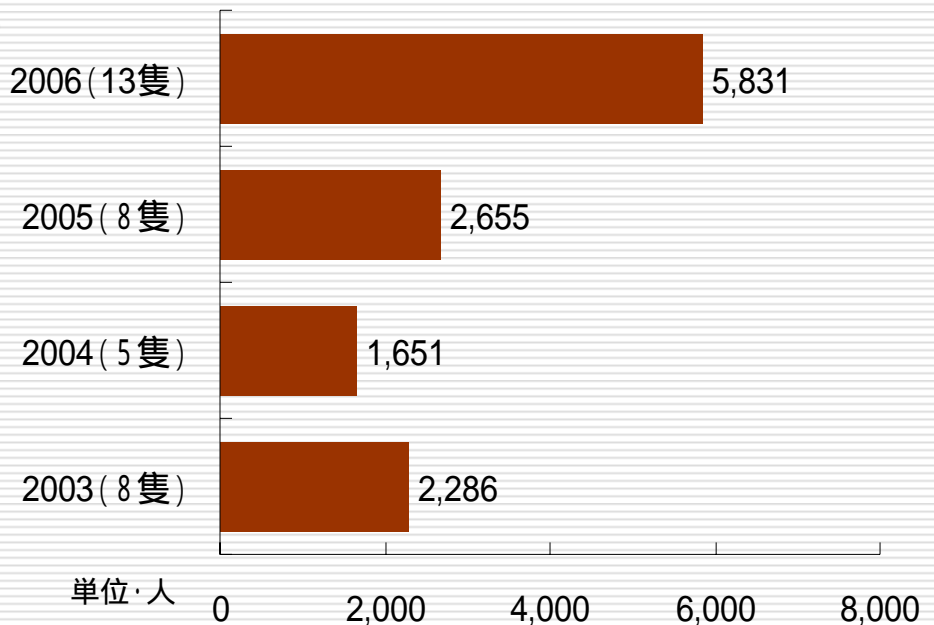
旅客船の状況と観光

釧路港寄港客船の状況

釧路港利用整備促進協議会の釧路クルーズ振興部会では米国クルーズ船会社のキーパーソン(運航計画責任者)を招請する事業や、釧路港みなと観光交流促進協議会の社会実験では旅客船の乗客をターゲットにしたフットパス(歩くことを楽しむ道)コースの開設などが行われている。

【釧路港における旅客船乗降客数の推移】

ちなみに釧路港に寄港した客船は、2006年で13隻、乗客数5,831人と大幅増加となっている。



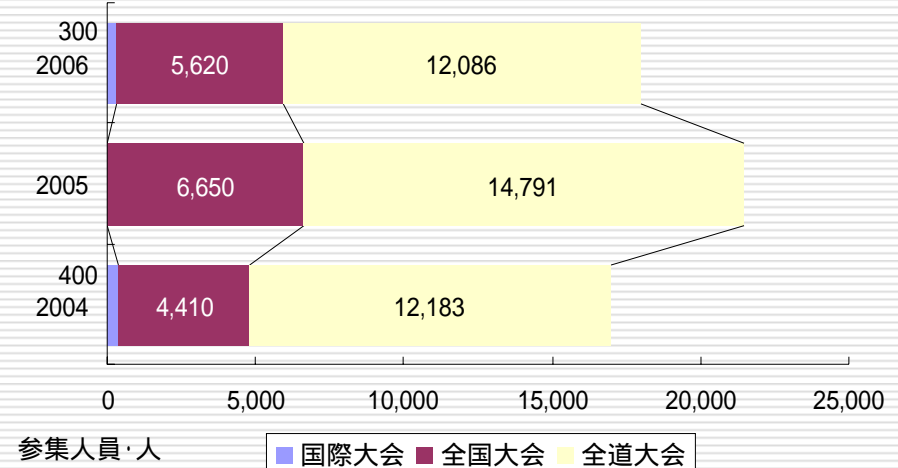
釧路開発建設部資料

観光

国際会議、コンベンション等の開催状況

釧路・根室地域における最近時の主要な国際大会及び全国大会などの開催状況をみると、全国大会は千人規模のものが例年開催されているが、国際大会については規模も小さく断続的な状況にある。コンベンションは、交通アクセスや宿泊機能など地域の「総合力」が計られるため、今後の活発化が期待される。

【釧路市における全道・全国・国際大会内訳】



【主な全国大会】（原則として1,000人以上）

- 2005年 第20回釧路湿原全国車いすマラソン大会（1,120人）
- 第3回日本神経疾患医療福祉従事者学会（約1,500人）
- 第26回全国中学校カート・アイスホッケー大会約1,600人）
- 2004年 日本生態学会第51回大会（約1,600人）
- 日本学生氷上競技選手権大会（約1,300人）
- 2003年 全日本中学校バレーボール選手権大会（約2,000人）
- 第9回地域福祉実践研究セミナー（約1,500人）
- 民事介入暴力対策協議会釧路大会（約1,500人）
- 2001年 全国都市監査委員会事務研修会（約1,400人）

【主な国際会議・大会】

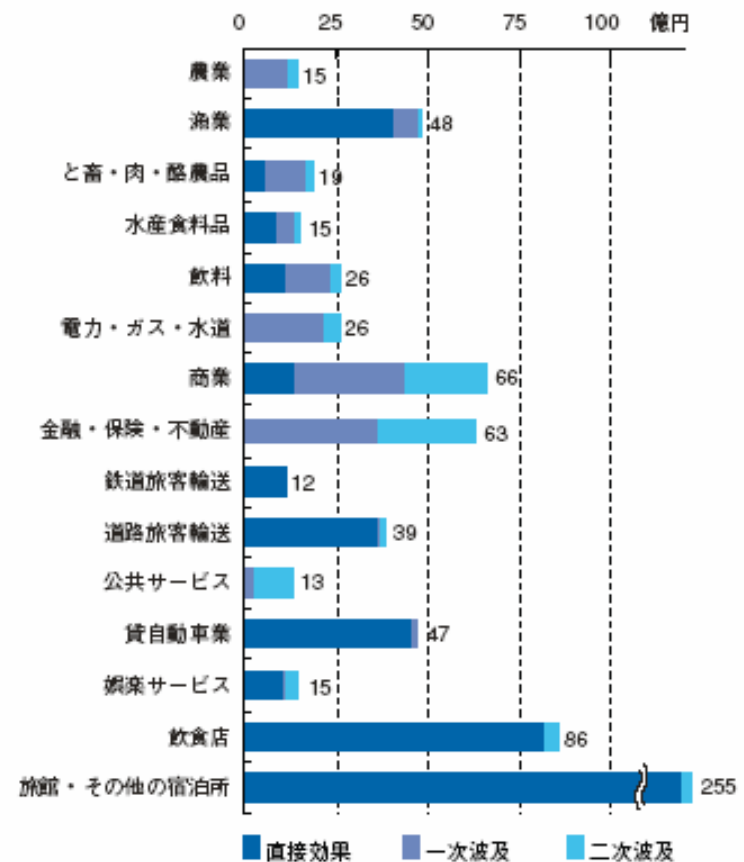
- 2006年 日中韓観光担当大臣会議
- 2005年 ツールド北海道（第1及び第2ステージ）
- 2004年 世界子どもサミット釧路大会（約200人）
- 日本スポーツ教育学会（約200人）
- 2002年 ツールド北海道国際大会（約300人）
- 世界ジュニアスピードスケート選手権大会（約500人）
- 1993年 ラムサール条約第5回締約国会議（約1,200人）

観光

観光消費の経済効果

観光の地域経済への波及効果（2000年推計値）は、観光消費額646億円で、うち域内消費額が555億円となり、生産波及効果859億円（うち付加価値誘発額474億円）、雇用効果7,700人と試算されている。

また、こうした観光消費は、旅館や飲食店だけでなく、様々な産業分野に波及効果を及ぼしている。

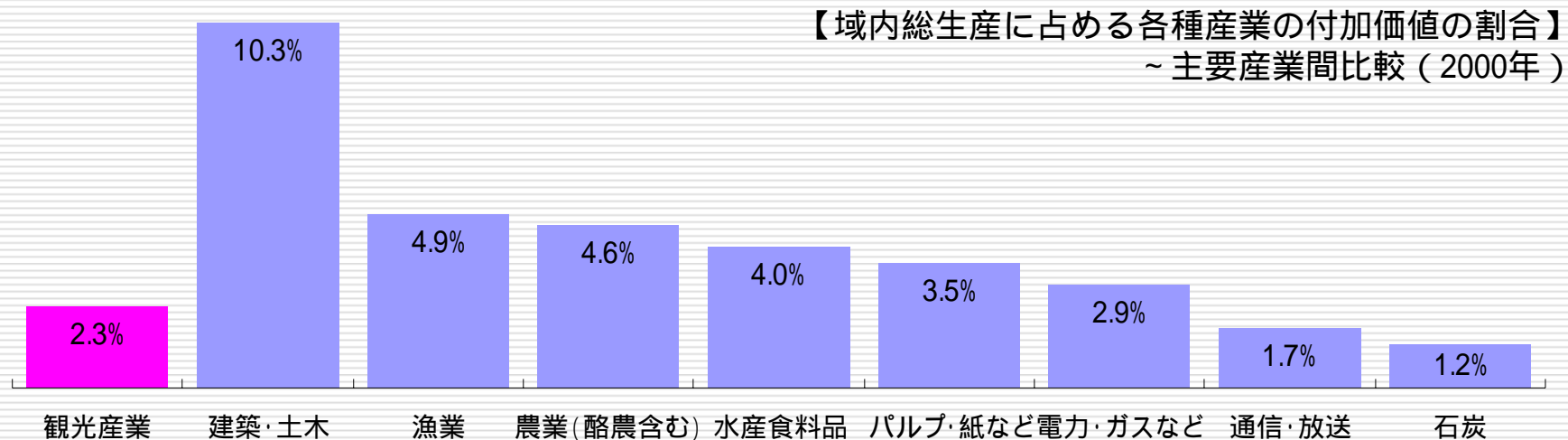


【産業別にみる観光消費の生産波及効果（2000年）】

観光

観光消費の経済効果

観光産業の域内付加価値は294億円（2000年推計値）は、域内総生産1兆2,694億円の2.3%を占めており、既に基幹産業と呼ばれる農業や漁業の半分程度の規模にまで達している。
 このように、釧根地域における観光は、地域の重要な産業となりつつある。



観光

体験型観光(事例)

地域の体験型観光等の動向

釧路・根室地域には、ラフティングやホーストレッキングといった他地域でも見られるもののほか、より地域に密着した産業体験(牧畜、酪農、畑作、水産業、林業)や自然再生事業(植林、育林、外来植物除去)、文学体験(石川啄木など)、歴史発掘(縄文、擦紋、アイヌ文化)、食文化史(世界的固有種シシャモ、釧路ラーメン、丹頂ソバ)などのツアーを提供するNPOもあり、数年前の年間約2.5千人から、現在では4千人程度の規模にまで達している。

その他では、期間限定あるいは単発的な営業を行っているところが多く、事業者やイベント毎の年間利用者数をみると、数十人から数百人程度となっているところが多い。

【釧路魚河岸ツアー】



【酪農体験ツアー】



観光

新たな観光(事例)

体験型観光のほか、地域における新たな観光メニューについて、新聞記事などから整理すると、主要なものとしては、以下の12ツアーが挙げられる。

これらは単発的、イベント的な色彩が強く、例えば厚岸古番屋冒険ツアーはピーク時でおおよそ1,500人、アザラシウォッチングツアーも例年100人程度の集客があるが、その他について数十人といった規模が多く、マスツーリズムにはそぐわない面もあるが、多様化するニーズへの対応や他との差別化といった視点からすると、になうべき役割は大きい。今後はこれらツアー数の増加のほか、PRなどによる集客力の確保なども重要となる。

【地域における新たな観光メニュー】

- ・厚岸古番屋冒険ツアー、別寒辺牛湿原カヌーツーリング、アザラシウォッチングツアー、アサリ掘り体験ツアー(以上厚岸町)
- ・魚河岸ツアー、石炭ツアー、パルプ港湾ツアー(以上釧路市)
- ・タンチョウ写真撮影ツアー(阿寒町(現釧路市))
- ・あったかふるさと再発見ツアー 青い海コース(釧路町)
- ・しばれ体験ツアー(鶴居村)
- ・バードウォッチング(根室市)
- ・スギ花粉リトリート(避難)ツアー(上士幌町)

【アザラシウォッチングツアー】



各種新聞記事等により作成

観光

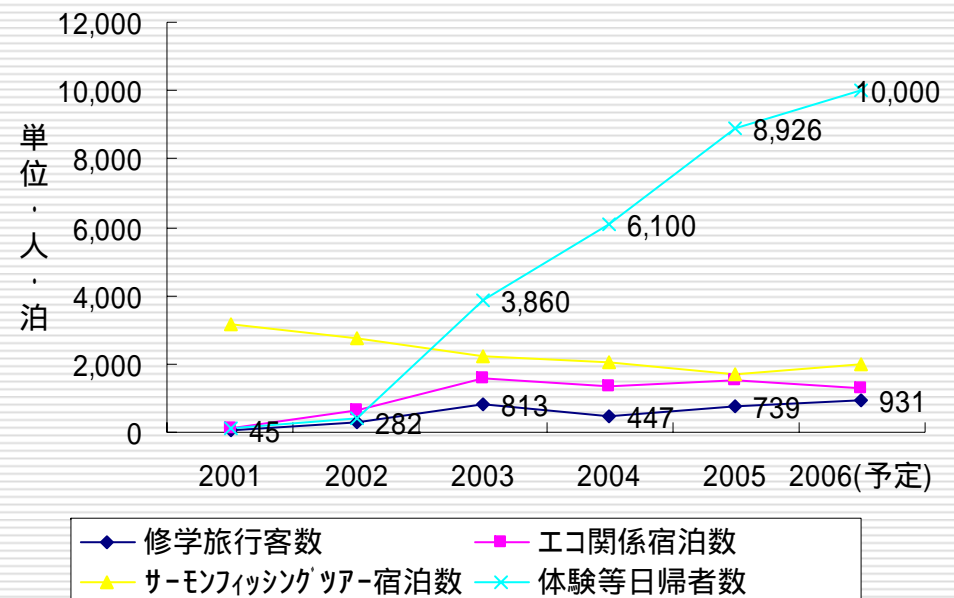
標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会（事例）

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会では、豊かな自然環境や農業・漁業などを活用し、地域HACCPでの水産現場の見学、加工体験、河川でのサーモンフィッシング体験、山菜ツアーなど地域のあるがままの自然、産業活動を体験してもらうため、地域一体となって都市住民との交流を行っている。

また、「町民ガイド」制度を作り、漁業、加工、フィッシング、山菜採り等の体験学習の場において、町民をガイドとして育成し、現地での対応を行っている。

これらの活動により、「体験交流の町」として中高生の修学旅行など、観光客が年々増加しており、2006年度は修学旅行客931人、日帰り体験1万人の受け入れを予定している。

【エコツーリズム交流事業の活動実績推移】



観光

AB-Mobit 根室フットパス (事例)

酪農家集団「AB - Mobit」は、農村と牧場の持つ素晴らしい景観と安らぎの空間を都市住民との共有財産として楽しみ育み、また消費者の牧場体験や牧場散策、牛とのふれあい等により酪農業への理解を深めてもらい、さらにはこれらの地域と都市住民との交流を通して地域の営農継続意欲の高揚や地域の活性化につながる活動を行うことを目的に5戸の酪農家が参加し、設立された。

【酪農体験】



- ・平成13年 「ピュアビレッジ構想」を策定、西厚床と富岡牧場にキャンプ場を計画
- ・平成14年 ミニワークショップによりキャンプ場を富岡牧場に設置することを決定
- ・平成15年 厚床駅～富岡牧場10.5キロのコース整備、農業、農村交流館完成
- ・平成16年 第2回根室フットパスワークショップ開催、キャンプ場基本施設に着手。調査・整備ウォーク(参加19名)、標津線廃線跡ウォーキングツアー(同41名)等実施
- ・平成17年 第3回根室フットパスワークショップ開催のほか、「築拓キャンプ場」とフットパス海岸コース(20キロ)、AB - Mobit食多楽クラブ(農産物加工体験、そばの栽培やそば作り等)を立ち上げた

